

A	原子炉建家	1	復水器
B	タービン建家	2	給水加熱器
C	廃棄物処理建家	3	高圧復水ポンプ
D	地下貯蔵建家	4	低圧復水ポンプ
		5	復水脱塩装置
		6	復水器補修用室
		7	気水分離室
		8	タービン蒸気タンク
		9	59007貯蔵罐室
		10	蒸気貯蔵タンク
		11	オフガスタンク室
		12	バッテリー室
		13	ナプレーションポンプ
		14	原子炉補機室
		15	H P C I 室
		16	ディーゼル発電機室
		17	ハリスボイラー室

地下階平面図

宮野 リン  
金子 様

金子 様

23.3.23

ERC片山課長 ← OFC総括班長 山本

今回の避難指定対象地域の拡大に関して、福島県と当方(現地対策

本部)とで協議し、国の考え方に対する県の意見等を取りまとめました。

これら意見に対して、早急にご回答いただけますようお願いいたします。

ます。

避難指示対象地域の拡大に係る意見等

23.3.23 福島県

1. 国の考え方

SPEED1による計算の結果、乳幼児に係るヨウ素の防護対策の指標である累積総量100mSvを上回る地域は、避難指示対象地域とする。

【100mSvを上回る地域の設定の考え方】

SPEED1計算の前提として以下を考慮した。

○ 3月12日6時から23日0時までの間、2号機において連続して一定量のヨウ素が放出されたものと仮定した。

○ この間の風速・風向及び地形による拡散の影響を考慮した。

2. 国の考え方に対する本県意見等

(1) 科学的・合理的根拠の明示の観点からの意見等

○ 前提となったヨウ素の放出量が、過大と考えられるがその根拠は何か。

○ SPEED1による計算結果は、内部被ばく量が外部被ばく量を大きく上回ることを意味するものと考えられるが、本県及びOFCのモニタリング測定結果と比較して整合性があるか。

○ この間県北地方では降雨量があり気象の影響が見られるが、こうした影響をどう評価しているのか。

(2) 県民への説明力ある説明責任の観点からの意見等

○ 避難指示地域拡大の理由を明らかにすべき

◆ 測定結果が低下傾向にあるが、今、何故拡大するのか

◆ 福島市において高い空間線量を測定してきたにもかかわらず、より低い空間線量を測定してきた地域を対象とすることに合理性があるか

○ 20kmを避難指示対象地域とした時点、20km~30kmを屋内避難指示対象地域とした時点からの状況変化を明らかにすべき

○ モニタリング測定結果(空間線量)と内部被ばく線量当量の関係を明らかにすべき。専門家は、内部被ばくは屋内に滞在する時間を考慮すれば、測定結果の1/10程度と説明する。

○ 今後、更に避難指示対象地域を拡大する場合に備え、拡大する場合の基準や考え方を明らかにすべき

(3) 円滑な住民避難の観点からの意見等

○ 安定ヨウ素剤(特に溶液)を確実に確保し全避難住民に配布すべき

○ 安定ヨウ素剤服用による副作用を確実に周知すべき

○ 避難先、移動手段を国の責任において速やかに確保に確保すべき

プレスレク概要 (第 46 報)

※ 末尾に会見後のぶらさがり対応メモ (津波関係) を添付

平成 23 年 3 月 23 日 (水) 21:45~ 22:20

場所: 保安院第 4 特別会議室

対応: 西山審議官

(冒頭発言)

[各号機の状況]

- ・ 1 号機の作業の特徴は微妙に温度圧力を調整しながら注水してきたこと。本日 2:33 より給水系からも注水。その作業の中で格納容器圧力が若干上昇している。この数値を注視する要あり。設計圧力までは余裕があり、これを超えてもまだ裕度を取っている。ただ原子炉圧力が上昇すれば、その先はウェットベント開放につながることもあり注視していく。並行して各機器に電気を通す作業を続けている
- ・ 2 号機はタービン建屋地下 1 階復水ポンプ付近で 500mSv/h を検出した。これは人が立ち入って作業する範囲の中では高い値であり、これまでの測定値の中では一番高い。ただし、5 分間の測定データからの推測値なのでちょっとした数値ではない。
- ・ 前回の質問回答になるが、3 号機の設計温度は 302℃で 1 号機と同じ。黒煙が原子炉建屋東側からでたが原因は不明で、現在も発煙が継続していると聞いている。作業員は退避しており、3 号機の作業員 7 名、1-2 号機中央操作室の 4 名も退避したと聞いている。3 号機は本日横浜市消防局と東京消防庁がサポートしての放水を計画していたが発煙により中止した。
- ・ 4 号機については、今日はコンクリート打設車で連続放水を行った。放水量は 130t と聞いている。
- ・ 5 号機にてポンプがトリップしたと聞いている。昨日までに外部電源が引かれたが、一部電源車で動かしていたポンプを外部電源に切り替えたところ 5 分後にトリップしたとのこと。明朝予備機に切り替えとのこと。5 号機はこのポンプが交換されるまで原子炉及びプールの冷却ができないことになるが、現状の原子炉及び使用済み燃料プールの水温は十分低いので明朝の取り換えで大きな問題はないと考えている。

[前回の質問回答]

- ・ 福島第一の津波対策の経緯。津波と地震動に対する原発の対抗力を得るため耐震設計指針が出されており、現在は H18 に改定された新耐震設計指針が物差しになっている。新指針の適用前に建てられた原子力発電所は新しい知見

に基づく指針に沿っているかバックチェックを実施してきた。また、津波評価に関しては平成14年2月に土木学会が原発の津波評価技術を取りまとめており、これに基づき東電が自主的に評価を行ったところ、津波高さは約5mと評価されている。バックチェックについては、福島第一については事業者で実施中であったところ本地震が発生し、タイミング的には残念な結果となった。

#### [プルトニウムの検出]

- ・ヨウ素、セシウムが検出されているという情報があるが、プルトニウムは重い元素なので簡単には飛び出してこない。また自然界にある他の影響を取り去ってプルトニウムだけを評価するのが難しい。例えばアメリシウムというプルトニウムと似た挙動を示す核種の検出をもって判断するやり方もある。その他、アルファ線を放出する核種全体を測定してその中から分析する方法や、土壌を採取してガンマ線を検出する方法等、どのような計測がよいか検討していきたい。

#### [SPEEDIについて]

- ・SPEEDIという放射性物質の拡散予測システムがあるが、放出核種の種類や量がはっきり分からないのでこれまで予測が難しかった。本日、原子力安全委員会からとりあえずの試算結果が発表された。詳しくは原子力安全委員会に問いあわせて欲しい。

#### (質疑応答)

毎日：土木学会の津波評価技術に基づく評価だが、5mでも浸水しないという評価だったのか、それ以前は高さの評価はなされていなかったのか。

回答：その高さでは十分耐えられ性能に影響はないと確認された。建設時の想定津波高さは、チリ津波の際における小名浜湾の最高潮位+3.122m。

共同：津波の高さは正確に5mか。また最高潮位+5mという意味か。

回答：正確には5.4m。潮位との関係については確認する。

共同：5.4mとなった評価の根拠（想定した地震）はなにか。

回答：確認する。

共同：5.4mの評価を行って以降、直近の指針改定まで再評価はしていないのか。

回答：確認する。

共同：耐震バックチェックで先に地震動の評価を行い、津波評価を後回しにしているのはなぜか。

回答：今回の災害が発生するまでは、柏崎刈羽原子力発電所の被災もあり、地震の影響が国民に最も心配されていたから。

7ジ T: 3号機の黒煙が出続けているのを確認したのは何時時点か。

回答: 確認する

7ジ T: 5号機でトリップしたポンプは海水ポンプか。5号機は21日に外部電源からの受電を開始したと聞いているが、ポンプの停止は今日になって初めて確認されたということか。

回答: ポンプがトリップしたことはすぐに確認されている。外部電源の通電後、順次機器が復帰するなかで、本日電源の切り替えを行った際に発生した事象。

7ジ T: 現在の5号機の原子炉容器と燃料プールの温度は定常的な状態の範囲内か。

回答: 確認する。

A P: 津波のバックチェックだが、津波高さの評価が3.122mから5.4mに見直された際に何か改良が加えられたのか、また今回の再評価で改良を施したのか。

回答: 前者の方はわからない。後者の方はこれからどういう津波を想定するか検討していたところで、今回の震災が発生した。

A P: 現時点では5.4mの津波にしか耐えられない設備ということか。

回答: 5.4mまでの津波には耐えられることが確認されているということ。その上どの程度裕度があるのか、正確には分からない。

産経: 2号機の作業の先行きだが、タービン内での作業は当面できないということか。冷却設備の復旧にもっていく見通しはあるのか。

回答: 線量が高い部分以外のエリアでは極力作業を行うと聞いている。1、2号機を総合的に考えて、それぞれの使える設備をフルに活用して両号機とも同様の機能を回復できないか検討している。

NHK: 黒煙が上がった3号機東側は、どのような設備があるところか。

回答: 確認する。

NHK: 21日の発煙は南側で、使用済み燃料貯蔵プールがある位置だとの説明だったが、同一の発煙元ではないということか

回答: わからない。

NHK: 今回の発煙を受け、3号機の作業は今後どうなるのか

回答: 確認する。

NHK: プルトニウムが検出されるとどのような問題があるのか。

回答: プルトニウムは $\alpha$ 線を出すので、体内に取り込むと長く滞留して人体に影響を及ぼす。

朝日: 3号機の作業は今後どうなるのか

回答: 確認する。

朝日：津波の件だが、バックチェックを終わっていないプラントについて優先的にチェックを実施する考えはあるか。

回答：現状においては検討中。

朝日：今回の震災を受けて、保安院として全国の原子力発電所に注意喚起等を出しているのか。

回答：現時点では出していないが、これからの重要な検討事項。

日テレ：午前中の会見では、3、4号機の作業員が退避したといていた。4号機の作業員は退避しているのか。

回答：退避した人が戻ったとは聞いていない。4号機の場合は確認する。

日テレ：3号機では明日以降、注入水を純水に変えるとのことだが、どこから注入するのか。純水のタンクは各号機にあるのか。

回答：復水貯蔵タンクから給水。通常このタンクから原子炉給水系に補給する。タンクはかなり大きく、現状、満水に近い。また、必要な水は外から確保することになり、当面水が切れる心配はない。

毎日：1号機は、どのようになったらウェットベント開放を行うのか。事前に周知されるのか。津波評価については、事業者からの報告はいつ頃提出される予定だったのか。

回答：ウェットベントの開放は、原子炉の強度が、設計値の2倍程度裕度があるとして、それを考慮しても危険になったときに検討する。うまくできかわからないが、なるべく事前にお知らせしたいと考えている。

毎日：次々と問題が生じてなかなか原子炉が安定せず、目標が達成できない状況をどう考えるか。

回答：みなさんにご心配をかける状況が続き申し訳なく思っているが、できる手段は着々と手を打っていると認識。発電所まで通電したので、持続的に冷却できる状況を確立するよう努めている。発煙が生じたり、色々ご心配をお掛けしているが、着実に作業は進んでおり、今の方法がベストと思うので、なるべく早く安定できる状態にもっていきたいと考えている。

以上

記者ぶらさがり対応メモ（津波関係）

3月23日(水)9:50から開催された保安院のプレス会見後、廊下で記者のぶらさがり質問があった。主なやりとりは以下のとおり。

Q：東京電力が土木学会の手法で評価した時期は？

A：平成14年2月頃

Q：その時の津波の評価高さは？

A：5.4～5.7m

Q：なぜこんなに幅があるのか。

A：1～6号機の場所が違うから。

Q：評価結果はどうだったのか。

A：福島第一6号機は、津波水位が海水ポンプの電動機据え付けレベルに対しわずかであるが上回っていたので、ポンプの据え付けレベルを嵩上げした。

Q：据え付けレベルを何mから何mに変えたのか。

A：op5.58mからop5.7mに、20cm程度嵩上げした。

Q：OPとは何か。

A：小名浜の平均潮位。TPより0.727m低い。

Q：6号機以外は工事していないのか。

A：そのとおり。

Q：その工事は設置許可対象か。

A：違う。工認の対象にもなっていない。

Q：保安院はその津波評価結果を公表したのか。

A：東京電力が自主的に評価したもの。

以上

左

暫定版

プレスレク概要  
(第47報)

経済産業省

番号 241243

幹 2F, 10 ←727

日時：平成23年3月24日 10:20~10:55  
場所：保安院第4会議室  
対応：西山審議官

\*末尾に会見後のぶらさがり対応メモ（津波関係）を添付

(説明)

<1Fプラント状況>

○1号機

- ・3/23 9:00 から消火系に加え給水系からも原子炉に海水注入。その後給水系からのみの注入に切り替えた。 昨晚、格納容器圧力上昇傾向にあるので注意が必要と申し上げた。これについて本日2:35、炉心への注水流量を少し減らして 178l/mを160l/mに減らした。これにより圧力減少。 本日5:00及び7:00の段階でともに0.400MPa。設計圧力0.528MPa 設計圧力多少下回った状態で安定今後圧力温度注視。
- ・使用済み燃料プール 4号機ほど上昇していないが冷却必要。今後使用済み燃料プール冷却系から消防ポンプで海水注入していくやり方で海水を入れたいと考えている。おそらく明日実施。
- ・中央制御室照明接続工事、直流1、2号機共有電源装置の設置が行われると聞いている。

○2号機

- ・原子炉パラメーター比較的安定。
- ・使用済み燃料プール建屋があるために外からの放水でなく冷却系から2度にわたり注水 3/20 15:05~17:20に40t、2回目18tを22日16:07~17:01注入。
- ・線量多い部分あると以前報告したが、線量の多いところ除き作業している
- ・本日は原子炉消火系ラインから海水炉心への注入実施、計装用電源復旧を目指す。
- ・明日以降中央制御室照明ケーブル復旧目指す。

○3号機

- ・昨日発生した黒煙は、本日9:40現在出ていない。
- ・使用済み燃料プール 3/23 11:03~ 11:20冷却系から約35t注水。3/24本日5:35より使用済み冷却系から500t24時間かけて注水の

予定、すでに作業開始。

- ・炉心に対して淡水注入切り替えのため復水移送ポンプ復旧できれば本日中。
- ・明日以降、計装用圧縮空気の健全性確認し動かしていく予定。
- ・3号機の黒煙の関係、現在は出ていない。黒煙が出ていた3号機東側原因ははっきりわからないポンプがいくつかある。潤滑油等が燃えた可能性もあるが特定できていない。
- ・作業については海水注入、復水移送ポンプによる淡水注入作業は行うことができている。
- ・放水について、横浜市消防局とそれを支援する東京消防庁のチームによって予定している実施の可否の判断を待っている。やるとすれば500tくらいやると聞いている。

#### ○4号機

- ・原子炉燃料入っていない。
- ・使用済み燃料プールの発熱が問題。これについては自衛隊に引き続き、コンクリートポンプ車23日注水行った。今後、必要に応じて実施するよう待機している。
- ・使用済み燃料プール冷却系からの海水注入については、他の作業との関係で、明日以降。
- ・計装用圧縮空気の健全性確認予定。

#### ○5、6号

- ・冷温停止に移行している。
- ・5号機残留熱除去系の仮設の電源ポンプから外部電源切り替え時に自動停止してしまった。放置すると燃料が熱くなる。
- ・本日午前中目途に復旧外部電源でのポンプ起動を目指す

#### <モニタリング>

- ・正門付近のデータ ほんのわずか低下傾向。 217マイクロシーベルト/h から、6、5となり、現在212、8マイクロシーベルト/h と若干下がっている。
- ・海水モニタリングについて、3/21~23 東京電力が採水している海水データ ヨウ素131 22日126倍だったものが、22日29.8倍に下がり、23日146、9倍とあがった。この変化は海の中の動きによるものと考えられるが、引き続きよく見る必要がある。

#### <耐震指針との関係>

- ・現時点の1Fの津波の指針はH14年2月土木学会「津波評価技術」に基づく東電の津波評価。最高潮位の5.4m上という設定でよいのかという質問があった。小名浜湾の平均潮位に5.4mを加えた値が1、2号機の最高水位と

して想定して設備を確認している。号機により設定潮位が多少異なるが、これは港の形状や海底の状況によるもの。3、4号機は5.5m、5号機5.6m、6号機5.7mとなっている。

- ・古くは1896年の三陸沖地震M8.3以降6つの地震をもとに最高震度を想定し、5.4mとしてプラント評価を実施。その後再評価していない。
- ・新しい指針に基づき再評価をしようという矢先に地震が発生した。
- ・古くは3.12mの津波を想定していたのが、H14の段階で5.4mに移行。その際、海水ポンプの備え付けのレベルについて6号機の据え付けレベルを高めたという改良を実施。
- ・そういう経緯で新たな指針に基づく評価の前に今回の地震が起こった

(質疑)

Q：(読売新聞) 1号機 5時と7時の圧力の数字。これは資料の格納容器の値358kPaの値を丸めて言ったのか。0.40MPaといふ2点のデータ見て安定と判断しているのか。その後下がっていないか。ベントの可能性は遠のいたとみているのか。

A：資料を確認する。安定しているかという点については楽観はしていない。炉心への流量下げたら少し圧力が落ち着いたという程度。当然監視の目を緩めるわけにはいかない。ベントについては、今のところすぐにとということではないと理解している。圧力が急激に上昇した場合は再検討。

Q：(テレビ朝日) 白煙の状態を整理して現状教えてほしい。また、3号機黒煙でいったん作業中止再開した時刻を教えてほしい

A：白煙については、1~4号機10:00ごろの観察水蒸気出ている。色のついた煙は確認されていない。3号機再開の時点は確認する。

Q：白煙は1~4号機全部出ているのか。

A：全部出ている。

Q：(共同通信) 4号機使用済みプール水温なぜ100度に上昇しているのか。また海水モニタリングで、海の水により濃度高まったと説明あったが、Teの値が今回急激に200倍に高まった理由を合わせて教えてほしい。

A：4号機使用済みプールは最も燃料がたくさん入っているので発熱量多い。目視で水が入っていることは過去確認し、放水により水を入れている。水の量的には必要量入っているが、すぐ沸騰するので注入必要。まずは応急的措置で冷やして外部電源で循環させて安定的な冷やし方に早く移行。Teについては後ほど回答する。

Q：4号機については引き続きコンクリートポンプ車で注水するということだが、きょうは放水予定されていないのか。

A：現時点では何時からとは決まっていない。状況により柔軟に対応する

Q：(産経新聞) コンクリートポンプ車についておとといから放水ということだが、提供申し出た会社が経産省に申し出をして以降、活用が遅れた理由を教えてください

A：私の理解は、自衛隊にも警察にもお願いし、東京電力がそうした車両を購入したりして使う、そのような準備を並行して実施しているバックアップ的な対応。これを遅れたと評価するのかどうか、可能な手段は全部とるという結果と思う。

Q：遅れたとは思わないのか。

A：結果論はあるかもしれないが、関係者が知恵を絞った結果と考える。

Q：(ダウジョーンズ) 4号機注入ルート確保という説明だが、内部電源を使うということか。

A：電源は使わずポンプを使うということ。

Q：3号機作業は再開されているということでよいか。

A：本日5：35から使用済み燃料プールに仮設のホースで海水注入開始。これをもって作業の再開ということ。

Q：海水中の塩分が燃料棒に付着するという問題があるが、どれくらい懸念すべき問題か。

A：当然海水は非常手段としてとったわけで、一部では3号機は淡水注入と考えている。なるべく淡水が望ましい。海水はおっしゃったような弊害もあるので、よく予測して対応を考えなければならないと思っている。

Q：(中日新聞) 白煙により作業が中断しているのか。

A：中断しているという情報は特に入っていない。

Q：(朝日新聞) 3号機プール5：35開始されたということだが、昨日中断した補給水系の作業も作業再開しているということだよいか。

A：確認する。

Q：(毎日新聞) モニタリングデータによると大気中セリウム144基準値約2倍となっているがこの評価。作業時、敷地境界と同列に評価してよいか。

A：追って回答する。

Q：(読売新聞) ベントについて、以前は7気圧8気圧までは耐えられるという説明だったが、先日は3気圧でもベントしないという話、現在0.5MPaでベントと言っているが、どういう基準でベントするかしないか判断するのか。

A：裕度はあるといっても危ないことがあるといけないので、臨機応変にやるということ以外にはない。

Q：3号機の時はやらない、1号の時は大丈夫ということで整合性がない。もし整合性ある説明ができるならしてほしい。

A：わかった。

Q：(NHK) 炉のパラメーター温度二つある 表面の温度ということでよいか。どこで図ったのか

A：表面の温度 表面に温度を測るものが張り付いている。

海水モニタリングデータの表について訂正がある。Te132 200倍 放射能濃度に誤記 +1乗でなく-1乗である。すなわち基準値の200倍でなく2倍である。

また、質問のあったセリウムについてこの区域は防護マスクをしているので作業者の吸気では1000分の1程度になるので問題ない。

以上。

#### 記者対応メモ(津波関係)

3月24日(水)10:15から開催された保安院のプレス会見後、廊下で共同通信から今回の会見に関する質問があった。主なやり取りは以下のとおり(耐震室対応)

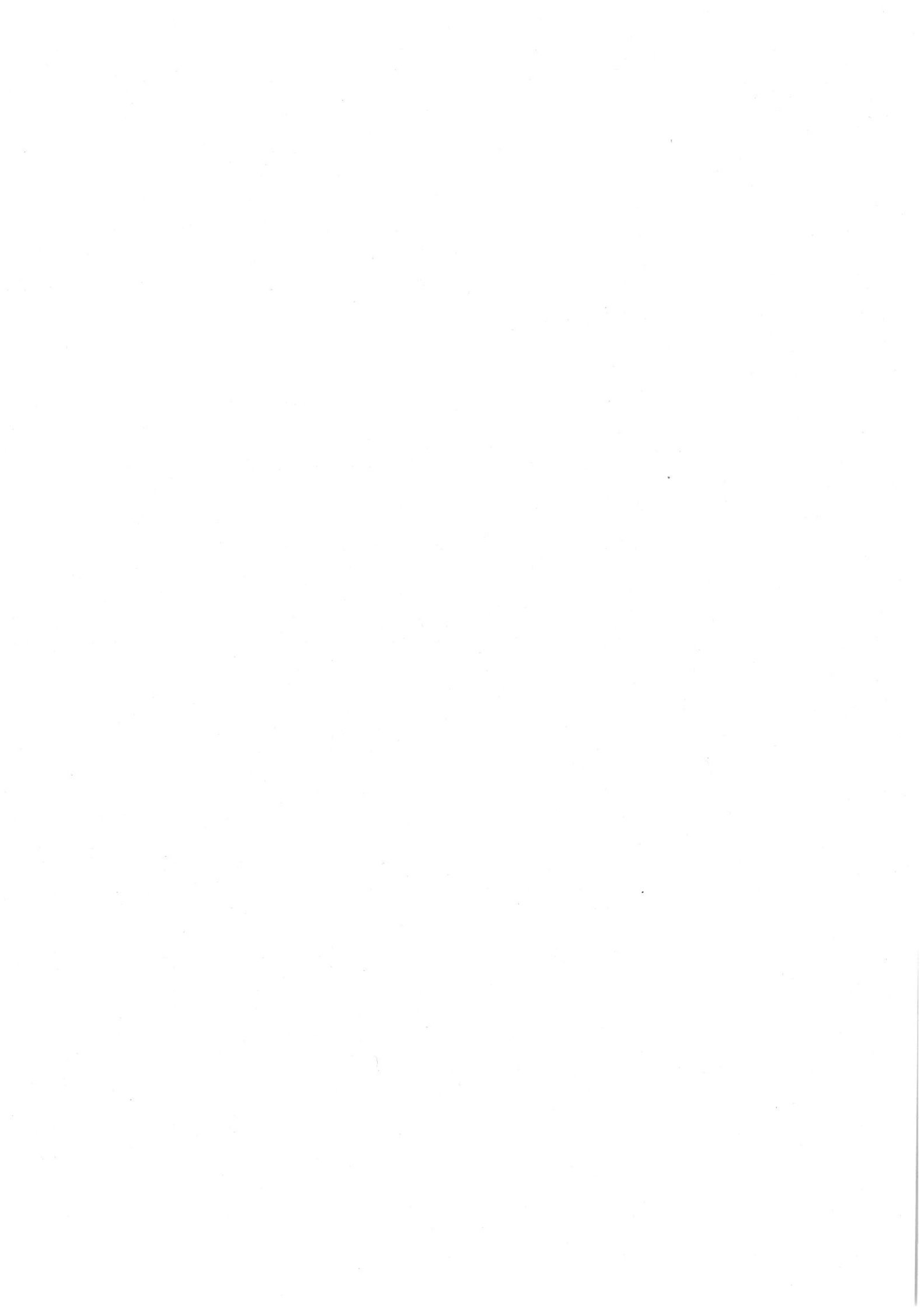
Q：先ほどの会見で1896年の命じ三陸沖地震ほかの地震を考慮してとの説明があったが具体的にどういう地震か。

A：1611年慶長三陸沖地震、1793年宮城沖地震、1938年塩屋沖、1677年房総沖地震、1960年チリ地震である。

Q：貞観地震は考慮していたのか。

A：考慮していない。

以上。



左

241935

オハ・統 ← リモコン

暫定版

## プレスレク概要

(第48報)

日時：平成23年3月24日(木)15:05～15:37

場所：保安院第4会議室

対応：西山審議官

(説明)

<前回からの進展変化>

○1号機

- ・午前中炉心への注水減らして圧力減少傾向と説明したが、温度について11:00現在175度182.8度まで下がってきている。まだしっかり見ていく必要あるが落ち着いてきている。
- ・11:30頃中操照明が点灯。

○2号機

- ・その後特に報告事項なし。

○3号機

- ・黒煙発生で中断していた作業を実施。
- ・海水に変えて淡水の注入を行うため、復水移送ポンプを再び動かすようにする。準備でき次第運転する。
- ・一方で、作業員がけがをされた。東電から別途発表があると思うが、地下1階で作業をされていたケーブルの敷設3名の方が被ばくされた。被ばく量170～180mSv。これにより作業は中断。2名が被ばくによる足の汚染が判明したので病院に搬送された。この点は大変気の毒なことだと思う。
- ・原子炉の温度は比較的安定してきている。
- ・ポンプ車注水作業のため電源関連の作業は一時中断。その後けが発生の現場以外の場所では作業再開。

○4号機

- ・使用済み燃料100℃と説明したが、防衛省のデータとだいぶ異なるから確認したところ、大部前に図った80度以降、きちんと計れていない、いわばあてにならないデータということだった。防衛省から23日現在8:57から9:26格納容器上28℃、プール上22℃、どうも100℃というのはあてにならないと考えていただきたい。
- ・コンクリート打設車注水14:36開始、3時間程度実施予定。

<質問積み残し>

・1号機圧力温度落ち着いているが、ウェットベントあるいはドライベントをどういう判断基準で行うのかという質問があった。外の環境に影響少ないウェットベント行い、どうしても危険な状態でドライベントを行うことになる。ウェットベントに着手するには、圧力、温度、水の注入の度合い、原子炉の状況見ながら総合的に判断するとしか申し上げられない。圧力いくつでやるといったような基準はない。最終的には福島事故統合対策本部長＝総理が判断することとなる。

(質疑)

Q：(日本テレビ) 冷却3号機真水に変えたいということ メリット淡水の方が不純物ないということだが、色々あると思うがなるべく詳しく、作業上のメリットと効果教えてほしい。

A：もともと海水を予定している機器以外、淡水も薬品を混ぜて回りやすくしているのが原発の鉄則。真水が必ずしも手当てできない場合、冷却することが必要なため海水用いている。真水の水質改善しながら機器の影響最小にしてやるのが原発のやり方、海水を用いると品質のコントロールできず、不純物もあり、比較にならないほど真水の方が本来の役割を果たせる。

Q：真水の方が海水より冷たいという説明があったが認識しているか。ポンプで自動的に送ることで作業員の数減らせるのかわかれば。

A：温度については条件によっては冷たいということもあるかもしれないが、よくわからない。海水はポンプ車をつないでやっているの、真水が原子炉内で回り始めれば手間もかからないポンプ車をつなぐ必要もない。

Q：(共同通信) 被ばくについて、何時頃どういう作業して被ばくしたのか。作業品防護服マスク付けていたのにどうして両足の皮膚の汚染どうしてできたのか。搬送された病院どこか。今回の170mSvの被ばくで累積で250を超えていないのか。

A：聞いているところでは、本日12:09、3号機のタービン建屋の大物搬入口から地下1階にかけてのエリアで淡水注入のためのケーブル敷設作業をしていた方が、170~180mSvの被ばくをされた。数字がそれぞれ累積でどうなっているかの情報は今ない。水につかっていた作業をされたというので水につかった部分が汚染された。二人は福島県立医大に搬送され、放射線総合医学研究所に搬送される予定。

Q：水が防護服からしみ込んだのか。あるいは防護服では遮蔽できないような汚染だったのか。

A：そこは聞いていない。